

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	22-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Changes in Alcohol Consumption and Risk of Dementia in a Nationwide Cohort in South Korea 韓国の国民コホートによる飲酒と認知症リスクの変化		
執筆者		
Jeon KH, Han K, Jeong SM, Park J, Yoo JE, Yoo J, Lee J, Kim S, Shin DW.		
掲載誌		
JAMA Netw Open. 2023 Feb 1;6(2):e2254771. doi:10.1001/jamanetworkopen.2022.54771.		
キーワード	PMID	
認知症、飲酒、韓国、飲酒の経時変化	36745453	
要旨		
<p>目的: 韓国国民を対象に飲酒の経時変化と全認知症、アルツハイマー病 (AD)、血管性認知症 (VaD) の発症率との関連を調べた。</p> <p>方法: 韓国国民健康保険サービス (NHIS) データベースから、2009 年および 2011 年に健康診断 (病歴および生活習慣 (飲酒、喫煙、運動等) の質問票、体格測定、臨床検査) を受けた 40 歳以上のデータを収集した。飲酒は頻度と量の質問票より、なし (0g/日)、軽度 (15g 未満/日)、中等度 (15-29.9g/日)、重度 (30g/日) とし、2009 年から 2011 年の飲酒量の変化にもとづき、非飲酒者、禁酒者、減酒者、持続飲酒者、増酒者に分類した。認知症は AD、VaD、その他の認知症の新規保険請求とした。Cox 比例ハザードモデルを用いて、飲酒の変化による認知症発生のハザード比 (HR) 及び 95% 信頼区間 (CI) を推定した。</p> <p>結果: 3,933,382 人 (平均年齢 55.0 歳, 男性 51.8%) の参加者において、平均追跡期間 6.3 年の間に全認知症 100,282 人、AD79,982 人、VaD11,085 人が認められた。持続飲酒者のうち、非飲酒と比較して軽度飲酒 (HR: 0.79, 95%CI: 0.77-0.81) および中等度飲酒 (HR: 0.83, 95%CI: 0.79-0.88) の持続は全認知症リスクが有意に低く、重度飲酒の持続は全認知症リスクが有意に高かった (HR: 1.08, 95%CI: 1.03-1.12)。同レベルの飲酒量の持続者を参照群とした場合、飲酒量が重度から中等度に減少した群 (HR: 0.92, 95%CI: 0.86-0.99) および非飲酒者が軽度飲酒した群 (HR: 0.93, 95%CI: 0.90-0.96) で全認知症リスクが低かった。飲酒量増加および禁酒者は全認知症のリスクが高かった。AD と VaD においても同様の傾向であった。</p> <p>結論: 認知症リスクの低下は軽度から中等度の飲酒の持続、重度から中等度への飲酒の減少、および軽度の飲酒と関連しており、認知症リスク低下のための飲酒の閾値は低いことが示唆された。</p>		